



千葉ユニットセンターの質問票集計結果から

お子さんの身近に たばこの煙はありますか？



私たちは空気の中にあるさまざまな物質を吸い込んでいますが、身近にただよっていることが多いものに「たばこの煙」があります。

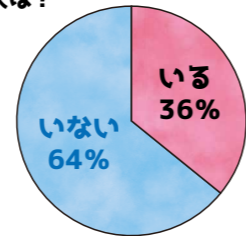
今回はほぼ回収が終了した6歳質問票から、家庭の中での喫煙について調べてみました。

(2021年7月20日時点の千葉ユニットセンターのデータに基づく暫定的な結果です)

家族（同居している人）にたばこを吸う人はいる？

この頃は新しいタイプの加熱式たばこや電子たばこも販売されているため、6歳質問票からは、新しいタイプのたばこについても回答していただいています。たばこや加熱式たばこ・電子たばこを吸う家族がいるお子さんは36%でした。

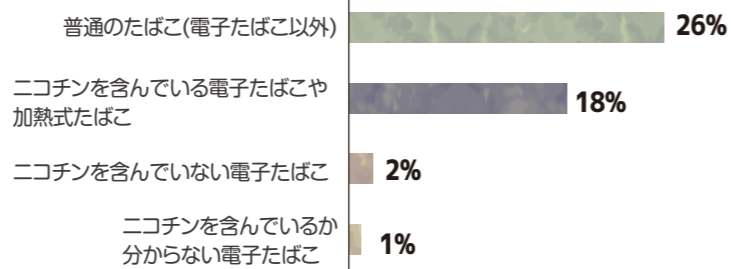
家族にたばこや加熱式たばこ・電子たばこを吸う人は？



回答数4160

家族が吸っているたばこを種類別にみると、普通の「紙巻きたばこ」が26%と多く、新しいタイプのたばこも20%くらいのお子さんの家庭で使っていました。

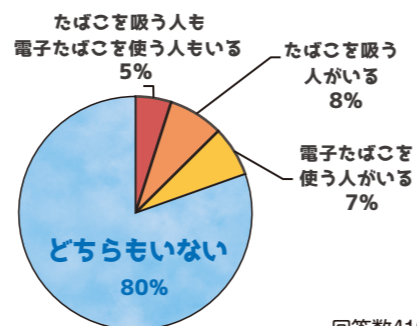
家族が吸っているたばこは？



回答数4160

20%のお子さんは、「近くでたばこを吸う人がいる」という回答がありました。
(たばこ、電子たばこ、または両方の合計)

お子さんのそばでたばこを吸う人は？



回答数4102



たばこの煙には何が入っている？

紙巻きたばこ（普通のたばこ）

粒子成分に4000種類以上、気体（ガス）成分には1000種類以上の化学物質が含まれています。そのうち有害物質は200種類以上、発がん物質は70種類以上あります。



加熱式たばこ（アイコス、グローなど）

たばこの葉を電気で加熱して発生して、ニコチンを含む煙を吸うものです。ほとんどの化学物質は紙巻きたばこよりも量が少ないですが、多くの種類の有害物質が含まれています。



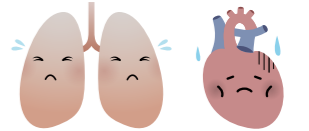
電子たばこ

香料などが入ったリキッド（溶液）を電気で加熱して、発生した蒸気を吸うものです。ニコチンを含む製品と含まない製品があり、ニコチンがなくても、ホルムアルデヒド、アクリロレインなどの有害物質を含むものがあります。



からだへの影響は？

これまでの研究結果から、喫煙は肺がん・口腔・咽頭がんなど、さまざまながんや心臓疾患、ぜん息などの病気のリスクを高めることが確実と判定されています。

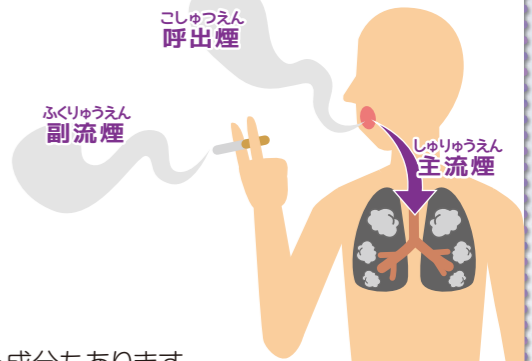


加熱式たばこや電子たばこは、まだ研究データが少なく、長期間使うことによるからだへの影響は明らかになっていません。ただし、「有害物質の量が少ない」といっても、「有害ではない」とは言えません。

受動喫煙

たばこの煙は3種類あります。

- 喫煙者が吸う「主流煙」
- 喫煙者が吐き出す「呼出煙」
- たばこから立ち上る「副流煙」



受動喫煙は二次喫煙と三次喫煙があります。

● 二次喫煙

喫煙者の近くにいる人が、呼出煙と副流煙を一緒に吸い込みます。

・副流煙は、有害物質の量が主流煙よりも多く、100倍以上含まれる成分もあります。

・加熱式たばこや電子たばこは、副流煙は出ませんが、呼出煙にもたばこの成分がたくさん含まれています。

● 三次喫煙

煙に含まれる化学物質は、喫煙者の毛髪や服、部屋や車の中などに付着し、また空気中にたどります。たばこを吸っていない時でも、喫煙者の周囲の人は煙の成分を吸い込みます。

たばこを吸う人はもちろん、周りにいる人まで、目に見えなくてもたくさんの化学物質を吸い込んでいるのです。

子どもの喫煙にも注意！



大人や青少年の喫煙率は年々減る傾向にありますが、10歳くらいからたばこを吸い始める子どもたちもいます。かっこよく見えたり、おしゃれなパッケージのたばこが多いので、好奇心でたばこを吸い始めることがないように、正しい知識を持つことが必要ですね。